

平成24年第1回竹原市議会定例会会議録

平成24年3月16日開議

(平成24年3月16日)

議席順	氏 名	出 欠
1	山 元 経 穂	出 席
2	高 重 洋 介	出 席
3	井 上 美 津 子	出 席
4	山 村 道 信	出 席
5	大 川 弘 雄	出 席
6	道 法 知 江	出 席
7	宮 原 忠 行	出 席
8	片 山 和 昭	出 席
9	北 元 豊	出 席
10	稲 田 雅 士	出 席
11	松 本 進	出 席
12	吉 田 基	出 席
13	脇 本 茂 紀	出 席
14	小 坂 智 徳	出 席

職務のため議場に参加した者は、下記のとおりである

議会事務局長 宮 地 憲 二

議会事務局係長 住 田 昭 徳

説明のため議場に出席した者は、下記のとおりである

職 名	氏 名	出 欠
市 長	小 坂 政 司	出 席
副 市 長	三 好 晶 伸	出 席
教 育 長	前 原 直 樹	出 席
総 務 部 長	今 榮 敏 彦	出 席
総 務 課 長	桶 本 哲 也	出 席
情 報 化 推 進 室 長	平 田 康 宏	出 席
企 画 政 策 課 長	豊 田 義 政	出 席
財 政 課 長	塚 原 一 俊	出 席
税 務 課 長	沖 本 太	出 席
会 計 管 理 者	堀 川 豊 正	出 席
監 査 委 員 事 務 局 長	木 村 忠 志	出 席
選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 長	桶 本 哲 也	出 席
市 民 生 活 部 長	谷 岡 亨	出 席
市 民 健 康 課 長	森 野 隆 典	出 席
ま ち づ く り 推 進 課 長	大 澤 次 朗	出 席
文 化 生 涯 学 習 室 長	西 口 広 崇	出 席
忠 海 支 所 長	森 野 隆 典	出 席
人 権 推 進 室 長	谷 岡 亨	出 席
福 祉 課 長	大 宮 庄 三	出 席
子 ど も 福 祉 室 長	井 上 光 由	出 席
建 設 産 業 部 長	柏 本 浩 明	出 席
産 業 振 興 課 長	中 川 隆 二	出 席
観 光 交 流 室 長	堀 信 正 純	出 席
建 設 課 長	大 田 哲 也	出 席
都 市 整 備 課 長	有 本 圭 司	出 席
区 画 整 理 室 長	有 本 圭 司	出 席
下 水 道 課 長	沖 谷 秀 一	出 席
農 業 委 員 会 事 務 局 長	西 原 正 教	出 席
教 育 委 員 会 教 育 振 興 課 長	久 重 雅 昭	出 席
教 育 委 員 会 学 校 教 育 課 長	亀 井 伸 幸	出 席
水 道 課 長	前 本 憲 男	出 席

付議事件は下記のとおりである

- 日程第 1 議案第 19号 平成24年度竹原市一般会計予算（予算特別委員会）
- 日程第 2 議案第 20号 平成24年度竹原市国民健康保険特別会計予算（予算特別委員会）
- 日程第 3 議案第 21号 平成24年度竹原市貸付資金特別会計予算（予算特別委員会）
- 日程第 4 議案第 22号 平成24年度竹原市港湾事業特別会計予算（予算特別委員会）
- 日程第 5 議案第 23号 平成24年度竹原市公共下水道事業特別会計予算（予算特別委員会）
- 日程第 6 議案第 24号 平成24年度竹原市公共用地先行取得事業特別会計予算（予算特別委員会）
- 日程第 7 議案第 25号 平成24年度竹原市介護保険特別会計予算（予算特別委員会）
- 日程第 8 議案第 26号 平成24年度竹原市後期高齢者医療特別会計予算（予算特別委員会）
- 日程第 9 議案第 27号 平成24年度竹原市水道事業会計予算（予算特別委員会）
- 日程第 10 議案第 28号 竹原市名誉市民の選定につき議会の同意を求めることについて
- 日程第 11 議案第 29号 竹原市職員の給与の特例に関する条例案
- 日程第 12 発議第24-2号 竹原市議会委員会条例の一部を改正する条例案
- 日程第 13 発議第24-1号 防災会議に女性の視点を取り入れることを求める意見書（案）
- 日程第 14 発議第24-3号 特別委員会の設置について
- 日程第 15 閉会中継続審査（調査）について（議会運営委員会・総務文教委員会・民生産業委員会）

午前10時37分 開議

議長（脇本茂紀君） 本日は休会の日ではありますが、議事の都合により、特に会議を開きます。

ただいまの出席議員は14名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

お手元に日程表（その2）を配付いたしております。この日程表のとおり会議を進めます。

日程第1～日程第9

議長（脇本茂紀君） 日程第1、議案第19号平成24年度竹原市一般会計予算から日程第9、議案第27号平成24年度竹原市水道事業会計予算までの9件を一括議題といたします。

事務局職員から報告文を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（脇本茂紀君） 予算特別委員会委員長の報告を求めます。

予算特別委員会委員長（北元 豊君） 委員長報告をさせていただきます。

ただいま事務局職員が朗読いたしましたとおり、当委員会へ付託された議案第19号平成24年度竹原市一般会計予算、議案第20号平成24年度竹原市国民健康保険特別会計予算、議案第21号平成24年度竹原市貸付資金特別会計予算、議案第22号平成24年度竹原市港湾事業特別会計予算、議案第23号平成24年度竹原市公共下水道事業特別会計予算、議案第24号平成24年度竹原市公共用地先行取得事業特別会計予算、議案第25号平成24年度竹原市介護保険特別会計予算、議案第26号平成24年度竹原市後期高齢者医療特別会計予算、議案第27号平成24年度竹原市水道事業会計予算につきましては、全体会議並びに専門項目ごとにそれぞれ分科会において慎重審議いたしました結果、当予算特別委員会としては9会計すべてを原案のとおり可決すべきものと決しましたので御報告いたします。

よろしく御審議の上、御決定のほどお願い申し上げます。

議長（脇本茂紀君） 質疑を省略し、これより順次討論、採決いたします。

議案第19号平成24年度竹原市一般会計予算について、委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。

これより討論に入ります。

11番。

11番（松本 進君） 私は、議案第19号2012年度、平成24年度の竹原市一般会計予算に反対をいたします。

今日、市民の生活や暮らしは依然として大変厳しい状況にあると考えています。貧困と格差の拡大、生活の窮乏をもたらす最大の原因は、新自由主義の政治、弱肉強食の構造改革路線にあると考えています。

労働総研によると、資本金10億円以上の大企業が利益をため込む内部留保は2010年度で266兆円です。これは正社員から非正規雇用への置きかえや下請単価の切り下げなどで積み上げてきたものであります。その一方で、労働者の賃金は1997年に比べて平均で年間55万円も減っています。このため、国内経済は物が売れず、価格が下がり続けるデフレから抜け出せていません。この悪循環を断ち切るかぎは、賃上げによる内需拡大が必要だと考えます。今こそ正規職員が当たり前の働くルールをつくって、雇用の創出と賃金の引き上げが必要だと思います。さらに、医療、年金、福祉など、社会保障の充実こそ安心できる社会の土台を築くこととなります。

今、政治に必要なことは、国民の暮らしを支え、経済の健全な成長を図ることだと私は考えています。ところが、竹原市の新年度予算案は、国保税の大増税は平均1人当たり7万7,168円から8万7,273円と1万105円の増、率にして13.09%の増税です。介護保険料の値上げは、第4段階の基準額で年額5万5,620円から6万4,080円と8,460円の増、率にして15.2%の値上げ、後期高齢者医療保険料は、均等割が4万1,791円から4万3,735円と1,944円の増、率にして4.6%の増加となっており、所得割については7.53%から8.35%、0.82ポイントの値上げであります。

私は、この大増税は、市民の命と健康や生身の人間の生存権を脅かすものだと考えています。私はこれらの大増税を直ちに撤回して、社会保障制度の趣旨や憲法25条の生存権を守る立場、自治体の本来の仕事である住民福祉の増進という原点に立ち返った竹原市の行政執行を強く求めるものであります。

次は、主要な公共事業のあり方について、その予算措置についてであります。

安心・安全の学校づくりで最も大切なことは、昨年3月11日の東日本大震災の教訓を生かすことでもあります。2011年4月現在、全国公立小・中学校の耐震化率は80.

3%です。国は第3次補正予算等により、90%まで耐震化率が進むと見えています。竹原市の小・中学校の耐震化率は、2011年度、平成23年度4月1日現在で67.5%であります。平成27年度までゆっくり耐震化すればよいという状況ではありません。教育長、市長は全国より大幅におくれた竹原市の状況を直視し、計画の前倒しをすること、少なくとも全国平均並みの耐震化促進対策を早急にとることを強く求めるものであります。

次に、新開土地区画整理事業等に約3億7,000万円余り、国道432号3工区や忠海中央線などの県営道路3路線の事業費2億7,500万円の負担金、ダム関連事業に伴う赤坂中仁賀線の道路整備費は従来の公共事業の予算措置であると思います。事業の経済波及効果や緊急度、必要度などの明確な説明責任が果たされていないと私は考えます。

新しいごみ処理施設等の整備に伴う負担金が2010年度734万2,000円、2011年度、今年度は839万2,000円、2012年度の予算では786万3,000円と、この3カ年で合計2,359万7,000円の予算計上となります。私は、一般廃棄物の資源化、リサイクル化等、竹原市として十分に検討することなく大規模焼却施設を建設することは最大の無駄遣いと言わなければなりません。この計画の撤回を強く求めたいと思います。

常備消防委託料4億5,798万3,000円は、消防組織法第6条に定める市の責務を放棄し、市民の生命、財産を東広島消防局に丸投げする予算措置であります。竹原市が市民に直接責任を持てる消防組織に改めることを再度指摘しておきたいと思います。

地域情報通信基盤整備事業の加入状況は、今年度末で3,200世帯、25%の加入率との説明でした。竹原市のCATVの整備は公設であります。市民に届ける必要な情報や防災情報などはすべての市民に等しく情報を提供すること、公平な行政運営が必要なことは言うまでもありません。情報の格差を早急に是正する対策を強く求めておきたいと思います。

学校給食配送業務や食品衛生の安全・安心の確保を担保できる対策を改めて指摘しておきたいと思います。

農業、漁業の従事者が大幅に減少している現実があります。再生産できる価格補償や所得保障の支援策の第一歩を踏み出して、次世代を担う若者が生産活動に参加でき、生活できる仕組みづくりは大変重要な課題と考えております。

次に、人権推進事業費等についてです。

2002年3月末で同和問題の地対財特法が失効して10年がたちました。2012年

度の予算資料説明でも、竹原市内で過去5年間部落差別に起因する結婚差別、就職差別は0件で、差別事件は発生しておりません。しかし、従来どおりの事業や部落解放団体への補助金50万円が予算措置されております。この予算の削減、是正を強く求めておきたいと思えます。

最後に、厳しい経済状況の中で、市民の生活や業者の営業は大変な苦境に追いやられています。このような状況の中で、国保税や介護保険料、後期高齢者医療保険料、住民税などの大增税、新たな負担増はだれが考えても市民の生活を脅かし、竹原市の経済にとって深刻な打撃を与えるものではないでしょうか。巨額な積み立て基金の一部でも取り崩し、また一般財源の活用を含めて早急な負担軽減措置を改めて強く求めておきます。今こそ不要不急の公共事業や無駄な予算措置は抜本的に見直すべきです。生活密着型公共事業や地域循環型公共事業への政策を実行し、市内業者の仕事確保に全力を尽くさなくてはなりません。私はせめて義務教育終了の中学校卒業まで、保護者負担をゼロにする思い切った子育て支援策を打ち出して、竹原市の人口減少に歯どめをかけるべきと思っています。学校や公共施設の耐震化促進を抜本的に強化することや、住宅リフォーム助成制度を早急につくり地元業者の仕事をふやすことを強く求めておきたいと思えます。

以上で2012年度の一般会計予算に反対する意見といたします。

議長（脇本茂紀君） 14番。

14番（小坂智徳君） 私は平成24年度竹原市の一般会計予算につきまして、賛成の立場で討論をさせていただきたいと思えます。

市長を初め、関係課におきまして、いろいろと昨年から本年度の予算計上につきまして、知恵を絞って予算提案をされた、このように解釈をさせていただいておるわけでございます。また、一方では先般から予算についての全体質疑、あるいは昨日までありました分科会等々でいろいろと各議員の意見の開陳もあったわけでございます。そして、その中には厳しい指摘事項、要望事項、こういったこともあったのではなかろうか、このようにも思うわけでございます。しかし、いろいろと積算根拠等々をお聞きする中で、私自身は妥当な今回の117億円、こういった判断をさせていただいたわけでございます。また、この予算執行に当たりましては、部課長を初め、そういった方々が市民の皆さん方から本当に公正で予算執行に当たられる、このような予算執行をされるのではなかろうか、こういった思いもしておるわけでございます。

そういったことも私自身は確信をいたしまして、本年度、平成24年度一般会計予算に

つきまして賛成をさせていただきたいと思えます。

以上です。

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案に対する委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。委員長の報告のとおり原案を可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（脇本茂紀君） 起立多数であります。よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第20号平成24年度竹原市国民健康保険特別会計予算について、委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。

これより討論に入ります。

11番。

11番（松本 進君） 私は、議案第20号2012年度の竹原市国民健康保険特別会計予算に反対をいたします。

一般会計予算の反対討論でも述べましたように、国保税の増税は市民の命と健康を脅かすことは間違いありません。予算説明資料を見ますと、国保税が高くて払えない世帯は、平成20年度が19.11%、平成21年度が19.22%、平成22年度が18.97%であります。今でも国保加入世帯の約2割近い方々が滞納しています。高い国保税が払えない人は、国民健康保険証を取り上げられてしまう。平成21年度の短期証の発行を見ると167件、資格証の発行が51件、平成22年は短期証が182件、資格証が64件、平成23年度は短期証が190件、資格証の発行が46件であります。この事態はいつでも安心して病院で治療することを奪うものであり、断じて私は許せないと考えています。今でも高い国保税をさらに大幅に増税することは、憲法25条の生存権を奪うに等しい事態と考えています。国保税の大幅な増税を撤回する財源は十分にあると考えています。それは巨額の積み立て基金の一部の取り崩しや一般財源の活用であります。この実施を強く求めて、私の反対討論といたします。

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案に対する委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。委員

長の報告のとおり原案を可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（脇本茂紀君） 起立多数であります。よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第21号平成24年度竹原市貸付資金特別会計予算について、委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。

これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。

お諮りいたします。本案は委員長の報告のとおり原案を可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第22号平成24年度竹原市港湾事業特別会計予算について、委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。

これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。

お諮りいたします。本案は委員長の報告のとおり原案を可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第23号平成24年度竹原市公共下水道事業特別会計予算について、委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。

これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。

お諮りいたします。本案は委員長の報告のとおり原案を可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第24号平成24年度竹原市公共用地先行取得事業特別会計予算について、委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。

これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。

お諮りいたします。本案は委員長の報告のとおり原案を可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第25号平成24年度竹原市介護保険特別会計予算について、委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。

これより討論に入ります。

11番。

11番（松本 進君） 私は、議案第25号2012年度の竹原市介護保険特別会計予算に反対をいたします。

一般会計予算の反対討論等で述べましたように、国保税の増税や介護保険料の大幅な値上げは、市民の生活や暮らしにとって必要不可欠な医療、福祉の安全網を崩壊させかねません。年金給付の切り下げや所得の減少という厳しい暮らしの中で、大幅な介護保険料の値上げは生活をさらに脅かすものと私は考えています。憲法25条の生存権を守る。住民の福祉の増進を図るという自治体本来の責務に立ち返って行政執行すべきであります。新介護保険事業計画策定は、市民のニーズを十分に踏まえて必要な介護施設、居宅サービ

スを決めるべきであります。市内特養ホームの施設の定員は153名、特養ホームの入所希望者は重複者を含めて508名であります。市民や家族、関係者が安心できる待機者ゼロの特養ホーム建設計画を強く求めて私の反対討論といたします。

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案に対する委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。委員長の報告のとおり原案を可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

[賛成者起立]

議長（脇本茂紀君） 起立多数であります。よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第26号平成24年度竹原市後期高齢者医療特別会計予算について、委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。

これより討論に入ります。

11番。

11番（松本 進君） 私は、議案第26号2012年度の竹原市後期高齢者医療特別会計予算に反対をいたします。

後期高齢者医療の保険料は、各都道府県で2年ごとに改定される仕組みとなっております。75歳以上の医療費と人口の増加があれば、際限なく引き上げる仕組みであります。民主党も2年前は後期高齢者医療制度の廃止を公約しましたが、この公約を破り廃止法案の提出さえできないでいることは断じて許されるものではありません。予算特全体質疑で明らかのように、月額年金が1万5,000円以下の人、また、無収入や無年金の人まで均等割の保険料を払わなくてはなりません。最大90%の保険料軽減措置が実施されても月額4,373円、月額364円の保険料が課税されるわけであります。私は緊急措置として、年金月額1万5,000円以下の高齢者には保険料相当額を市独自の支援措置で給付することを強く求めておきたいと思っております。

民主党政権は公約を守り、この制度を廃止すべきことを意見を述べて、私の反対討論といたします。

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案に対する委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。委員

長の報告のとおり原案を可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（脇本茂紀君） 起立多数であります。よって、本案は原案のとおり可決されました。

議案第27号平成24年度竹原市水道事業会計予算について、委員長の報告は原案のとおり可決すべきものとするものであります。

これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。

お諮りいたします。本案は委員長の報告のとおり原案を可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第10

議長（脇本茂紀君） 日程第10、議案第28号竹原市名誉市民の選定につき議会の同意を求めることについてを議題といたします。

事務局職員から議案を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（脇本茂紀君） 市長から報告理由の説明を求めます。

市長（小坂政司君） 議案第28号竹原市名誉市民の選定につき議会の同意を求めることについて、提案の理由を御説明申し上げます。

本案は、芸術文化の進展に貢献し、その功績が卓絶で郷土の誇りとして市民から深く尊敬される今井政之氏を竹原市名誉市民に選定することについて、竹原市名誉市民条例第3条の規定により議会の同意を求めるものであります。

今井氏は、昭和53年に築いた竹原市高崎町の豊山窯を拠点として、数々の陶芸作品を生み出し、面象嵌法の第一人者として国内外で高く評価されており、平成23年11月には日本の文化の向上発展に関し、特に功績顕著な者として文化功労者に選ばれ、日本の芸

術文化の発展に尽力してきた功績が認められたところであります。

また、幼少期を過ごした竹原市の自然に看過され、作品の多くに瀬戸内海の生き物を描き、その力強く生命力に満ちた作品を通して、竹原に陶芸という新たな文化を根づかせるとともに、昭和63年の今井政之展示館の開館及び平成14年の今井政之陶芸の館の開館に当たっては、作品展示などにも尽力をいただき、市内外への芸術文化発信に寄与されました。

さらに、たけはら美術館における展覧会の開催のほか、御自身の作品を多数寄贈していただくなど、本市の芸術文化の発展に多大な御貢献をされるとともに、市内小学校児童に対し、特別授業として陶芸作品の制作指導を行うなど、豊かな感性を持つ人材の育成と児童の夢の実現を支援し、本市の教育振興にも寄与されております。

このように、学術技芸の進展に貢献され、その功績は卓絶で郷土の誇りとして広く市民にたたえられていることから、竹原市名誉市民に選定しようとするものであります。

何とぞ御同意のほどよろしくお願い申し上げます。

議長（脇本茂紀君） これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。

お諮りいたします。本案は原案のとおり同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり同意されました。

日程第11

議長（脇本茂紀君） 日程第11、議案第29号竹原市職員の給与の特例に関する条例案を議題といたします。

事務局職員から議案を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（脇本茂紀君） 市長から報告理由の説明を求めます。

市長（小坂政司君） 議案第29号竹原市職員の給与の特例に関する条例案について、提案の理由を御説明申し上げます。

本案は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの間、部長級及び課長級の職員に係る給料月額について、5%減額する特例措置を定めるものであります。

現在の社会経済情勢は、昨年3月に発生した東日本大震災の影響、さらには歴史的な円高やデフレの影響も重なり、また雇用情勢の悪化懸念が残っているなど、厳しい状況にあります。

本市におきましても、これまで職員の定員の見直しや給与水準の適正化に取り組むとともに、事務事業の見直し、民間委託の推進など、給与関係費を初め内部管理経費の節減に取り組んできたところでありますが、このたびの予算編成において、昨年度に引き続き多額の基金を取り崩すほか、急激な高齢化と社会経済情勢の変化により、各種社会保障制度において市民に対し負担増を求める中での運営を余儀なくされるなど、今後の財政運営は非常に厳しい状況にあるものと考えております。

これら本市を取り巻く社会情勢や財政状況などから総合的に判断し、給与水準の適正化やさらなる行財政改革に取り組むこととし、このたび職員の給与について減額措置を講じることとするものであります。

何とぞ慎重に御審議いただいた上、適切な御決定をお願い申し上げます。

議長（脇本茂紀君） これより質疑に入ります。

11番。

11番（松本 進君） ただいま市長の提案に対して質問してみたいというふうに思います。

まず第1番目には、この給与削減の具体的な影響額、人数や金額等についてまずお尋ねしておきたいというふうに思います。

それと2点目には、今の時期にこういった政策の1つといいますか、これが適切なのかなどいうことを私は基本としてお尋ねしておきたいんですね。

先ほど予算の中でも申し上げましたように、今の長引く不況といいますか、この市民やいろんな方々の生活の苦しい状況の最大の原因という、国内経済が悪化している原因というのが、物が売れない、そして価格は下がっていくという、このデフレの悪循環といいますかね、これがやっぱり今なかなか出し切れていないということで、どう抜け出すか、こ

の悪循環から、デフレの悪循環からどう抜け出すかという面では、先ほど私も申し上げましたが、雇用の創出とか賃金の引き上げとか、こういったことがやっぱり決め手になるし、もう1つは、医療や年金や介護、こういった社会保障の分野での安心感といいますかね、これがあって初めて物を買う力といいますか、消費マインドが拡大できるというふうに思うんですね。ですから、私は端的に言って、こういった竹原市でも同じような事態が起こって、この今の悪循環、不景気から早くやっぱり脱出しなくてはならないという面で予算ではそういった反対の意見を述べさせていただいたわけですが、こういった今のこの提案に対して、2つ目はそういった物が買えない、物が売れないと言うんですかね、そういったことに拍車をかけるということに私は大変竹原市の経済が悪化するということに危惧するんですけれども、そういったところの認識、この提案と竹原市経済の状況をどのように認識されているのかという、この2つの点を聞いておきたいというふうに思います。

議長（脇本茂紀君） 総務課長。

総務課長（桶本哲也君） まず、1点目のこの給与の改定に伴います影響額ということでございます。

まず、対象の人数でございますが、これは28名でございます、年間のこの影響額は合計いたしまして1,055万円でございます。それから、こうした給与の改定の措置が経済等に与える影響と申しますか、そういった対策に逆行するのではないかというような御質問かと思えます。このたび、職員の――これは部課長でございますけれども、給与の改定を提案させていただいております。

職員の給与、地方公務員の職員の給与ということにつきましては、国あるいは他の地方公共団体の給与の状況、あるいは民間事業者との給与の均衡、こういうものを原則として定めるということとされています。これまでもそういった考え方から、一定には人事院勧告制度に基づきまして決定をさせていただいてきたところでございます。

このたびの部課長の給与の削減につきましては、先ほど市長のほうから申し上げましたとおり、大変厳しい経済情勢、あるいは本市の財政状況などを総合的に勘案をいたしまして、さらなる行財政改革に取り組む必要があるというようなことから取り組むものでございます。

先ほど議員さんのほうからおっしゃられました景気対策と申しますか、消費対策、こういったことにつきましては、これまで市のほうにおきましては、国の経済対策に呼応した

予算をお願いをさせていただきまして取り組んできたところでございまして、今後もうこうした経済対策には取り組んでまいりたいというふうに考えておりますので、どうぞ御理解をいただきますようによろしくお願いを申し上げます。

議長（脇本茂紀君） 11番。

11番（松本 進君） ぜひ市長のほうにお答え願いたいと思うのは、私こういった、今この1,000万円を超える給与の減ということでありましたし、一人一人の生活も大変なことになると思うんですけれども、私はそういった視点とは別の角度から、こういった竹原市での経済、今大変な事態になっているものを、これをこういうことすればまたさらに悪循環になってくる。このことを大変やっぱり心配するわけですね。要するに、毎年のように年末には市職員を含めて給与のカットが行われたり、それが決してそういうことが何年か続きましたけれども、竹原市にとって本当にプラスになっているのかなど。今最大のもの、やっぱり物が売れないからいかに物が売れるようにして国内需要を高めるような工夫といいますか、政策をしなくてはいけない。そういう面では確かに給与の問題、雇用創出の問題、あとは安心できる社会福祉、こういったことは総合的にやっぱり政策が要るんですけれども、そういった中がどンドンどンドン賃金は、年末になったら毎年のように職員を含めてカットがされる。今回もまたこういう形が出るという面で、私はどう考えても竹原市の経済の今のデフレの悪循環、これがプラスになるとは、好転するとはどう考えても思えないんですね。ですから市長は、そこらを提案される思いですよ、2回目ですけども、これだけちょっと聞いておきたいんですね。好転するとは思えんけどもこう出して、全体の分を見るんだよと、総合的に判断というのがそういうことになるのかもしれませんが、そこはやっぱり私はそういう、この政策の選択肢の中では、やっぱり竹原市の大きな経済の今の不況というのをどう脱出するかということで、これだけではありませんけれども、先ほど言ったような安心した社会福祉、どう築いていくかと、竹原市としてどう築いていくかということもあわせた中で、この1つにしても逆行していると。経済の好転には、竹原市の経営機能回復にはつながらないと私は思いますけれども、2回目の質問ですから市長にぜひお答え願いたいと。

議長（脇本茂紀君） 総務部長。

総務部長（今榮敏彦君） 職員の給与につきましては、先ほど課長も申し上げましたとおり、公務員の場合は人事院勧告に基づく給与の調整というものでございます。議員御説明のとおり、近年の状況につきましては、民間給与との格差調整ということでの減額措置と

いうものも続いているところでございます。

このたびの給与の特例措置に関しましては、繰り返しにはなりますけれども、冒頭市長のほうからも申し上げましたとおり、現下の社会情勢等、さまざまな要因を総合的に判断いたしまして決定をさせていただくというものでございます。

なお、本市における景気対策、経済対策に関しましては、さまざまな形で措置をすべきものというふうに考えておまして、このことについては引き続き現下の情勢を判断する中で適切な対応に取り組んでまいりたいというふうに考えております。どうぞ御理解のほどよろしくお願い申し上げます。

議長（脇本茂紀君） 11番。

11番（松本 進君） 市長が答えていただけないから、私最後になりますけれども、やっぱりこれだけで終わるということで判断しているわけじゃないんですよ。先ほど言ったような、毎年年末のように職員を含めて賃金カットされる。今回予算ではそういった先ほど言ったとおりなんですけれども、繰り返しになりますからね。だから、やっぱりこういったことやったら物を買おうかという、そういう気にはならないと言うんですかね、やっぱり生活防衛がまず第一になるじゃないですか。だからこれは市の職員とどう関係あるとかいう言い方するんでしょうけれども、だから私が言ったのは、その全体の中でこういった市の職員の削減というのが、今の時期にこういった本当に適切なのかなど。私の考えでは少なくともデフレの悪循環にますます要因にはなると、景気の好転にはならないということで、私はこういった今適切な政策判断ではないというふうに、私ははっきり思っているんです。ですから、そこがやっぱり総合的な判断というだけではちょっと説得力が欠けるんじゃないかなという思いがあるので、その繰り返しになるのでちょっとあれなんですけれども、ぜひ市長としてこういう提案された思いとして、私の分で答えていただきたいのは、景気がよくなるかならないか、こういったやっぱり対極的な判断が要るんじゃないかということについてどうお考えでしょうか。

議長（脇本茂紀君） 副市長。

副市長（三好晶伸君） 松本議員には現下の厳しい社会経済情の中でのとりわけデフレ経済における本市においてのいろんな消費者、消費マインドの低下、あるいは消費の縮減につながるのではないかという御懸念を、御指摘をいただきました。

我々としては、市長最初から申し上げておるように、特にこの平成24年度の当初予算をこのたび提出するに当たっての所信の一端を述べさせていただいております。その中で

も、こういった現下の厳しい経済情勢の中で、先行き大変不透明な中でございますが、本市の予算の編成に当たっては円高への総合的な対応策、並びに数字の補正予算を迅速に実行するなど、国、県、市合わせて、この景気、刺激対策等を積極的に推進をしていくということを述べております。

そして、本市においてもとりわけこの予算の中で、これまで国や県の施策に歩調を合わせて、雇用対策として離職者の緊急雇用、あるいは地域活性化対策を目的とした各種交付金を活用したインフラ整備などを実施し、市民の安心かつ安定した暮らしの確保に取り組んでまいりたいと、また取り組んでまいりました。そういった状況の中で、24年度の予算編成については、こういったいろんなさまざまな認識のもとでこれまで実施をしてきた取り組みを踏まえ、元気で住みよい竹原市づくりを推進するために、重点施策として子育て支援、高齢者対策、安全・安心づくり、そして地域振興策など、この4分野について主要な分野としての位置づけをして施策を推進していくというふうなことで、こういった消費者の消費の縮減につながらないように取り組んでまいりたいというように考えております。

議長（脇本茂紀君） 6番。

6番（道法知江君） 私も実は本当に頭を抱えて悩みに悩んだ今回の議案の第29号であります。部課長の方々もやはり家庭を持っていらっしゃる、この切りかえ年度の3月のこの日に、こういった議案を提出すると。

昨日初めて聞いたということもありまして、このたった1日できょうの本会議の決定を見るという、この早急に出されてきたということに対してまず1点、もう少し時間の猶予が欲しかったというふうに正直言って思います。

家庭を支えている財布のひもを握っているのは恐らく奥様方でないのかなと思います。月額にすると3万円削減されるという金額になっております。この3万円がもともとの給与水準が高いがために3万円は何とも思わない金額なのか。

しかし、市民の方々は平均的にも400万円をいただくにもなかなかそういう方たちもいらっしゃらないという現状で、同じレベルになると月額3万円というのは非常に高価な金額になると。この差がやはり格差を生んでいるのではないかなというふうに私は思います。これがたった1日で結論を出さないといけないという本市の今のこの現況が非常に私自身、議員というこの立場で結論を出さないといけないということに本当にゆうべは一晩考え、悩み、どう判断したらいいのかなということは今が今でもなかなか結論が出ないと

いう状況であります。

とは言っても、結論を出していかないといけないということで1点、やはり一番大事な議員の立場というのは、市民の皆さんの水準、生活目線というところに立たないといけないのではないかなということで、私は今回はこの議案に対して前向きに考えていこうというふうに思っております。

ただ1点、どうしても納得いかないのは、さきに先輩議員もおっしゃったように、今なぜこの時期に出すのかと、この1点だけがどうにも理解しがたいことです。このことをお聞きしたいと思います。

議長（脇本茂紀君） 総務課長。

総務課長（桶本哲也君） このたび、今議員さんのほうおっしゃられましたように、大変短い期間での審議をお願いするということになりましたことに対しましては大変、本来ならやはり当初から御提案申し上げまして審議をしていただくというのが本来だというふうには思っております。その点につきましては大変申しわけなく思っております。

このたびの給与の削減、部課長の給与の改定に伴いまして、平均1人当たり、期末勤勉手当、管理職手当も含めまして38万円、それを平均しますと3万円ということでおっしゃられたというふうに思います。

このことにつきましては、先ほど来申し上げさせていただいておりますように、やはり厳しい経済情勢でありますとか、本市の財政状況など、こういったものを勘案しましてさらなる行財政改革に取り組む必要があると。まずは部課長からということで御提案をさせていただくというものでございます。

どうぞ御理解のほど、よろしく願い申し上げます。

議長（脇本茂紀君） 6番。

6番（道法知江君） やはり議会というところは議論の場だと思います。本当に慎重審議をするということであれば、やはり余りにもこの時期、せめて3カ月、半年ぐらい時期が必要ではなかったのかなということを私は感じております。特に、お子さんをお持ちの方が新年度を迎える。毎月3万円の給料が、お父さんが3万円削減されるんだということになりますと、やはり家庭を支えている、経済を支えている側になりますと本当に大きな金額なんだということで、これは職員の方ももちろん市民でもありますし、そういう点は慎重に検討していかないといけないことではないかなというふうに思いました。期間の問題すごく感じております。

では、景気は、たったこの1年間でこのまま推移されるのかどうか、中期的、長期的にも考えていかないといけない。給与の削減ということに対しては、やはりラスパイレス指数100に近づけるような体制も考えていかないといけないということはあると思います。

それと、一番懸念されるのは、部課長になりたくなくなる。もう普通の状態でいい、このままでいいというような士気が落ちるようなことのないように、また仕切り直しをしていただかなければいけないのではないかなということもあわせて考えます。

給与の削減ということは、この経済情勢の中でやむにやまれないという状況ではあると思いますけども、それに引きかえ新たな政策の転換ということもあわせて必要ではないかな。給与が削減することによって、若い職員の方たちが前向きに本市を活力のある本市にするための政策提案ということに本当に一生懸命になれるのかどうか、そういう点をもう一度お伺いしたいと思います。

議長（脇本茂紀君） 副市長。

副市長（三好晶伸君） 先ほど来申し上げましているように、大変本市を含めた全国的な厳しい社会経済情勢の中、あるいはもろもろの社会保障制度等に起因をする市民への負担増、こういったものについて我々は大変重く受けとめをいたしております。

そういった状況の中で、このたび部課長の給与5%をカットするということについては、大変市長ともども苦渋の決断をさせていただきました。そして、このたびの措置がこの職員の士気の低下につながるということが絶対にあってはならないというふうなことで我々は部課長、また職員全体と、みんなと色々な話し合い、協議をしながら竹原市の将来に向けての本当に適正な方向に行くような取り組みをこれからもしてまいりたいというふうに思っておりますので、どうか本当に苦しい決断をさせていただいたということについて御理解をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 6番。

6番（道法知江君） 最後になります。減額することによって市民の皆様に対するサービスの低下のないように、減額はしたけれども、本当に現場の職員は一生懸命対応してくれているというようなことが市民の皆様にはわかるようにしていただきたいというふうに思っております。

また、あわせて政策提案、本市が活力ある本市になるということを実際にまた24年度、新たな新年度を迎えますので、そういった意気を高めていくということに一生懸命尽

力をしていただきたいと思います。

以上です。

議長（脇本茂紀君） これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

11番。

11番（松本 進君） 私はこの第29号の議案、職員の給与削減についての議案に反対をしたいと思います。

今、政策選択の中で一番大切なことは、国内の経済をどう回復させるかと、不況からどう脱出するかと、こういったことが大きなやっぱり政策選択の私は指標になるというふう思うわけですね。特に今回の給与削減の提案だけでなく、年末には連続してこの職員給与の削減が行われてきた。こういったその中の一環として今回もこういうことになれば、こういう給与削減ということになれば、ますますこの竹原市内の消費マインドを本当に冷え込ませる。凍結と言ったらおかしくなるかも知れませんが、そういった表現をしてもいいくらい物を買う力を冷え込ませるということは明らかだと思うんですね。

ですから、私は先ほど言ったように、この今のデフレの悪循環から脱出すると、この政策選択から見たら、私は今回の給与の削減はやっぱり間違っていることというふうに指摘せざるを得ません。したがって、この議案には反対をしておきたいというふうに思います。

議長（脇本茂紀君） 7番。

7番（宮原忠行君） 私は賛成の立場で討論に参加をさせていただきたいと思います。

大変部課長の皆さん方には日々御苦勞をいただいておりますということにつきましては、私もよくよく承知をいたしておるわけでありまして。そうした意味では、改めて御苦勞さんと、こういうふうに申し上げたいと思います。

しかしながら、松本議員も国保、そして介護保険、そして後期高齢者、これについて大変厳しい指摘もされ、また意見も述べられたわけでありまして。そして、低所得者の方であるとか無年金者の方であるとかいう方々への減免も含めた救済も求められたわけでありまして。

この国民健康保険、それから後期高齢者介護保険、そして市民税合わせれば、3つの税でいっても総額で16億円でしたかね。それで、おおよそならして言えば、平均で言えば1世帯当たり2万円の負担を求めるといふ重い決断を市長としてもなされなければならぬ

かった。そしてその苦渋の決断に至ったということについても、それなりに私も理解できるところであります。

一方において、東日本大震災に対する財源を、国、地方あわせてどういうふうにするかを保つために財源を確保していけばいいのかということで、国家公務員の給与削減法も政党・政派を超えて何とかかんとか成立にこぎ着け、そしてまた、そうした1つの国家公務員の東北地方の方々への連体といいますか、共生の意味を込めて竹原市においてもそういう御決断をいただいた。そして、この議会におけるやはり市民負担に対する管理職としての1つのどういいますか、市民感情と折り合いをつけるために、何とかその御負担に対して身を削る、その決断をされた市長の御決断に対しましては、私はここで敬意を表させていただきます、賛成の討論とさせていただきますと思います。

以上です。

議長（脇本茂紀君） これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（脇本茂紀君） 起立多数であります。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第12

議長（脇本茂紀君） 日程第12、発議第24－2号竹原市議会委員会条例の一部を改正する条例案を議題といたします。

事務局職員から議案を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（脇本茂紀君） 本案は、議長を除く出席議員全員の発議であります。よって、議案の説明、質疑、討論を省略し、採決いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、議案の説明、質疑、討論を省略することに決しました。

お諮りいたします。本案は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第13

議長（脇本茂紀君） 日程第13、発議第24-1号防災会議に女性の視点を取り入れることを求める意見書（案）を議題といたします。

事務局職員から議案を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（脇本茂紀君） 本案は、議長を除く出席議員全員の発議であります。よって、議案の説明、質疑、討論を省略し、採決いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、議案の説明、質疑、討論を省略することに決しました。

お諮りいたします。本案は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第14

議長（脇本茂紀君） 日程第14、発議第24-3号特別委員会の設置についてを議題といたします。

事務局職員から議案を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（脇本茂紀君） お諮りいたします。本案については、議案の説明、質疑、討論を省略し、採決いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、議案の説明、質疑、討論を省略することに決しました。

これより採決いたします。

お諮りいたします。本案は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

お諮りいたします。ただいま設置されました特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、議長において山元経穂君、高重洋介君、井上美津子さん、山村道信君、大川弘雄君、道法知江さん、宮原忠行君、片山和昭君、稲田雅士君、松本進君、吉田基君、小坂智徳君、以上12名の諸君を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました12名の諸君を庁舎問題調査特別委員会の委員に選任することに決しました。

日程第15

議長（脇本茂紀君） 日程第15、閉会中継続審査（調査）についてを議題といたします。

お手元に配付いたしておりますとおり、議会運営委員会委員長並びに各常任委員会委員長から会議規則第73条の規定に基づき閉会中の継続審査（調査）の申し出がありました。

お諮りいたします。それぞれの委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査（調査）とすることにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、それぞれの委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査（調査）とすることに決しました。

お諮りいたします。今期定例会の会期は3月2日から3月19日までとなっておりますが、今期定例会に付議されました案件はすべて議了いたしました。よって、会議規則第7条の規定により、本日をもって閉会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、本日をもって閉会することに決しました。

閉会に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

今期定例会は、3月2日開会以来、本日まで15日間にわたり117億6,100万円余りの一般会計外7特別会計、水道事業会計、合わせて総額212億5,600万円余りの新年度当初予算案を初め、多数の重要案件について御審議いただき、本日ここに全議案を議了いたし閉会の運びとなりました。

議員各位におかれては、竹原市の発展と福祉の向上を願い、終始熱心な御審議をいただきまして深甚なる敬意を表しますとともに、衷心よりお礼を申し上げる次第でございます。また、市長を初め、理事者各位におかれましては、誠意をもって審議に御協力いただき、その御労苦に対しまして厚くお礼を申し上げます。

社会経済情勢は、復興支援施策の推進、エネルギー問題、社会保障と税の一体改革等々、国会審議が難行する中、世界的な金融不安による国内主要産業の業績不振など、国の内外において不安定感を増すばかりとなっております。

本市におきましても、昨年後半に幾らかの明るい話題もありましたが、平成24年度予算は前年度に比べてマイナス予算となりました。依然として極めて厳しい財政状況下にあつての予算編成であり、その御労苦は多とするものでありますが、この間、議員各位から寄せられた御意見、御提言などを真摯に受けとめられ、今後の市政執行に際し十分反映し、市民の安心かつ安定した暮らしの確保に向け英知を絞り、職員一丸となって取り組まれるよう切に願うものであります。

終わりに、会期中にお寄せいただきました議員並びに理事者各位の御協力に対しまして、重ねて厚くお礼を申し上げますとともに、ますますの御活躍を御祈念申し上げまして、閉会のごあいさつといたします。ありがとうございました。

市長より発言の申し出がありましたので、これを許可いたします。

市長（小坂政司君） 本定例会閉会に当たりまして、一言お礼のごあいさつを申し上げます。

去る3月2日に開会いたしました本定例会におきましては、平成24年度の一般会計、特別会計及び水道会計の各予算を初め、多くの案件につきまして終始精力的な御審議の上御決定をいただき、本日閉会の運びとなりましたことに対し、感謝申し上げますとともに心より敬意を表する次第であります。

さて、本市を取り巻く社会経済情勢は、人口減少、少子・高齢化の進展など、経済のグローバル化や社会の成熟化、地方分権改革の進展など、大きく変化をいたしております。

また、昨年3月に発生しました東日本大震災による経済的影響は一部持ち直しの動きがあるものの、依然として厳しい状況にあります。

こうした状況のもと、ますます多様化する市民ニーズや地域の課題などを把握する中で、市民目線に立った施策を推進するとともに、創意工夫を凝らした施策の展開や独自の地域づくりを進めていく必要がございます。

今後、財政状況がますます厳しくなることや、中・長期的な見通しが大変厳しい中、市民からの意見や要望を勘案し、市民の安心かつ安定した暮らしの確保に努めるため、住民と協働によるまちづくりのさらなる推進とともに、事業の適切な選択と集中に努め、持続可能な財政基盤の確立に取り組んでまいりたいと考えております。

本会期中に賜りました議会からの御意見、御提言を踏まえ、御決定いただきました新年度予算の執行につきましては、時代の動きをしっかりと見定める中で、市職員一丸となって経費の節減や効果的かつ円滑な事業推進に努め、目指す将来像「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」の実現に向けて、元気で住みよい竹原市づくりに全力を傾注してまいりたいと考えております。

終わりに、議員各位の御審議、御決定に対し、重ねて感謝申し上げますとともに、今後とも市政の円滑な運営と諸施策の推進に一層の御支援、御協力を賜りますことをお願い申し上げます。御礼のごあいさつといたします。まことにありがとうございました。

議長（脇本茂紀君） これをもって平成24年第1回竹原市議会定例会を閉会いたします。

午前11時59分 閉会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

平成 年 月 日

竹原市議会議長

竹原市議会副議長

竹原市議会議員

竹原市議会議員